

## 発疹の支持療法がオシメルチニブの治療継続に及ぼす影響

緒形 富雄

(株)アインファーマシーズ アイン薬局 旭川医大店

【目的】 EGFR チロシンキナーゼ阻害剤(以下、EGFR-TKI とする)のオシメルチニブ(以下、OSIM とする)は発疹の副作用発現率が高く、治療継続には支持療法を実施することが重要となる。本研究では、その支持療法に使用されるミノサイクリン(以下、MINO とする)や保湿剤のヘパリン類似物質(以下、HEPA とする)が服用継続期間に及ぼす影響を調査し、薬局薬剤師が治療継続に貢献するための課題を検討した。

【方法】 2017 年 4 月から 2020 年 10 月に当社グループが運営する保険薬局 598 店舗が応需した OSIM 処方患者 729 名を対象に、MINO 処方の有無(あり群 103 名、なし群 626 名)及び HEPA 処方の有無(472 名、257 名)に群分けし、服用継続期間を Kaplan-Meier 法およびログランク検定で比較した。また、各薬剤の服用継続日数について、男性、65 歳以上、MINO 処方有、HEPA 処方有を説明変数とした Cox 比例ハザード分析(有意水準 0.05)で解析を行った(アイングループ医療研究倫理審査委員会承認番号:AHD-0082)。

【結果】 服用継続期間は、MINO 処方あり群(474 日、95%CI:385-609)の方がなし群(392 日、353-427)と比較して、有意ではないが長い傾向がみられた。また、HEPA 処方あり群(448 日、95%CI:392-522)の方がなし群(323 日、273-399)と比較して、服用継続期間は有意に長かった。さらに、Cox 比例ハザード分析では、男性(HR:1.43、95%CI:1.19-1.73)、HEPA 処方(0.74、0.61-0.91)で有意な影響がみられた。

【考察】 本調査より、OSIM 服用患者への HEPA 処方は患者 QOL 向上に寄与して服用継続期間を延長し、MINO 処方にもその可能性があることが示唆された。また、男性は服用継続期間を短縮するリスク因子である可能性も示唆された。したがって、薬局薬剤師は、特に男性の OSIM 服用患者の発疹の発現状況を詳細に確認し、MINO または HEPA 等の積極的な支持療法の提案も重要と考える。

(第 31 回医療薬学会年会(2021 年 10 月, Web)にて発表, 一部要約)